



編集委員長就任にあたって

編集委員会 委員長

東京女子医科大学東医療センター 外科

小川 健治

日本癌病態治療研究会は、「癌の病態や治療法に関する研究を行い、その病態に基づく、個人個人に適した治療法を確立すること」を目的に平成4年に設立されました。以来18年間、わが国の癌研究や癌治療の一翼を担って発展してきましたが、その間、本研究会と私どもの医局との関係は深く、平成13年の第10回研究会を梶原哲郎前教授が、そして一昨年、平成19年の第16回研究会を私がお世話させていただきました。またこのたびは私、その研究会の学術誌であります「Annals of Cancer Research and Therapy」(英文)と「W' Waves」(和文)の編集長を務めさせていただくこととなりました。大変嬉しく、光栄に存じております。

現在、癌は相変わらず日本人の死亡原因の第1位を占め、私たち医療者にとりまして、大敵であることは研究会設立当時から変わらない事実です。しかし、私たちは苦勞しながらも、着々と治療成績を向上させ、癌制圧への光明を見出しつつあります。

その成果の1つに、癌治療法の多様化とその発展が挙げられます。手術、化学療法、放射線治療、免疫療法などが各々飛躍的に発展し、エビデンスが蓄積され、その情報世界で共有できるようになっています。それを患者の病態にあわせて自在に選択する、つまり現在の癌治療は、患者個々の病態にあわせたテーラーメイド治療です。まさに本研究会の目的や理念は、設立18年を経た今でも色褪せていないと心強く思っています。

さらに基礎医学と臨床医学の協力、いわゆる Translational Research の推進が挙げられます。癌の病態の解明、化学療法、免疫療法(ワクチン療法や細胞治療など)などの飛躍的な進歩もこの成果といえましょう。また今後は、癌を生活習慣病としてとらえ、その観点からの癌予防が、新しいテーマとして加わりつつあると考えています。

「Annals of Cancer Research and Therapy」は Online Journal となり、すべてインターネットの利用で投稿が大変簡便となり、私たちも査読に時間がかからなくなりました。したがって掲載、公開までの時間が驚くほど短縮されています。癌の病態や治療法に関する原著論文や総説はもちろん、珍しい症例、治療に難渋した症例など症例報告の投稿も歓迎です。インターネットの普及で、情報は国際化しています。私自身、本誌がこの流れに乗り遅れないよう微力を尽くすつもりですが、会員の皆様のご協力で、本研究会の研究成果が、本誌を通じて世界に発信されることを期待しています。

「W' Waves」の方は、読んで面白い、読んでためになる紙面作りを目指しています。会員の皆様には気軽に投稿していただき、本研究会のさらなる活性化につなげたいと考えています。宜しくお願い申し上げます。